



廃校活用への挑戦 ～泊まれる学校 さる小～

一般社団法人猿ヶ京小学校スポーツアカデミー
代表理事 窪田 金嘉

廃校活用に挑戦するのであれば、補助金(税金)を使うことなく、誰にも迷惑をかける事がないように、自費で挑戦してみることになりました。資金は3000万円ほどかかりました。

取組むに当たって、廃校活用をいろいろと考えた結果、隣接する猿ヶ京温泉との協調関係を作り上げる、すばらしい木造建築をそのまま活かし、自然が豊かな環境を利用した猿ヶ京小学校を教室そのままの形で活用する考え方を軸に運営することを決意しました。また、小学校の教室に泊まり、小学校で給食を食べる環境づくりは、卒業生が帰ってきたとき、同窓会ができるように、学び舎の思い出が甦るように、故郷への気持ちを忘れないようにしてほしい。そして故郷を思う気持ちが、「帰って来たい」という気持ちを抱かせ、故郷に戻ってくるキッカケになることを切に望んでのことです。雇用の場を増やす目的もありました。

豊かな自然とすばらしい木造建築の猿ヶ京小学校の雰囲気満喫できるように、「泊まれる・学べる・遊べる」をコンセプトとし、ストレス社会の都会では絶対味わえない、非日常的なことを全てできる環境づくりを推進していくことにしました。小学校の不可思議な雰囲気(小学校に幽霊が出る等)も魅力のひとつと考えました。

猿ヶ京小学校(廃校)への挑戦が始まりましたが、志とは裏腹に、それからの運営は苦しみの連続でした。今では良い思い出として話すことが出来ますが、当時は全く泊り客がなく、資金が底をつき閉鎖する事を考え始めていました。

そんな悶々とした日々が1年間ほど過ぎた頃、いろいろと悩み抜いた結果、猿ヶ京小学校の「貸切り」を思いつきました。一日一団体限定で猿ヶ京小学校を「貸切り」で利用していただく、新しい経営方法を思いつきました。「貸切り」での問題点は収支が合うかどうかですが、勇気を奮って新しい宿泊運営に挑戦することにしました。「貸切り」を軸に、食事の充実を図るためBBQの場所を設置し、BBQセットも揃え、キャンプファイヤー、花火ができる環境も整えました。企業研修の企画を立て、研修室の整備、運動会用具、音響設備、風呂の設置を進め、そのためのHPの充実も図り、宿泊客の確保に邁進しました。

補助金(税金)を一切利用せず、いまでは自力で運営している廃校として注目を集めるようになりました。

